

藤香会だより

藤香会創設

一二〇周年記念事業について

藤香会副会長 中島敏行

明けましておめでとうございます。

実は私は昨年の年頭、この「藤香会だより」で一昨年の年度計画（福岡城築城四〇〇周年記念事業）の一つであった「記念事業奉賛者名記念碑設置」の、一時中断について申し上げました。中断の主な理由は、一昨年の夏、突然襲った百年に一度といわれた世界同時不況という、先の見えない社会状況がありました。「この時期

に奉賛金を募るのは如何なものか」、役員会での協議の末の結論でした。

さて本年は、藤香会が明治二十四年（一八九一）に発足して一二〇年目、来年が満一二〇年となります。

すでにお手もとにはお届けしましたが、「藤香会創設一二〇周年記念碑建立趣意書」のとおり、一昨年度から中断しておりました築城四〇〇周年記念事業を、藤香会創設一二〇周年記念の事業に替えて、再開することいたしました。記念碑の除幕は今年の十月を予定しておりますが、くわしくは次期五月の総会でご説明いたしますので、よろしくご理解をお願いします。

第8号

平成22年1月1日発行

発行者

藤香会事務局

092-541-8268

発行責任者

中島 敏行

第五回 歴史勉強会

講演と展覧会見学

期日 平成21年9月5日(土)

場所 福岡市博物館

1. 講演「福岡藩主黒田家菩提寺を飾った荘厳具等について」

講師 博物館学芸員 宮野 弘樹

2. 展覧会「福岡藩主黒田家の法要展

今回の勉強会は、福岡市博物館主催の福岡藩にちなむ「展覧会と講演」に相乗りさせてもらう形となりました。会員参加者は三六人でした。「展覧会と講演」の要約

江戸時代の大名家は先祖の命日には盛大な法要をしました。黒田家も菩提寺や福岡城内で様々な催しをし、祭壇は豪華な荘厳具で飾りました。

その有様は、菩提寺である崇福寺や東長寺に

残されている日記や葬送行列図などの古文書、また仏具としての金工品・漆工品、あるいは打敷といわれる豪華な色彩が施された織物などから知ることが出来ます。

東長寺に残る第三代光之公の葬儀の記録には、その模様が克明に綴られています。光之公のご遺骸はお城の近くにあった隠宅（現在の護国神社付近）から東長寺までおよそ一五〇人の葬列で、二時間をかけて移されました。その葬列の記録には参列の家臣一人ひとりの名前が、並ぶ順番どおりに記され、その人物の役職名と役目なども書き添えられています。また、簡単なながらも俯瞰図のように、葬送行列図と使われた葬祭具が描かれています。

崇福寺では、歴代藩主の遠忌法要の中で特に規模が大きかった初代藩主・長政公の二百年忌法要のことがわかるそうです。このときの法要は、お寺ばかりでなく福岡城内、筑前全領内をまきこんで盛り上がりましたが、これには長政

長政公ご法要

並びに長久公初盆会

初代福岡藩主・黒田長政公の命日、八月四日に同公の三八七回忌ご法要と、二月二十六日にご逝去された黒田長久公の初盆会が営まれました。崇福寺兼務妙楽寺住職の渡辺桂堂師が導師を務められました。

本堂での法要には藤香会および関係者四八人と一般市民二一人の参詣がありました。参詣者全員の焼香が終わって、黒田家第十六

公を顕彰することで、藩政の引き締めを図る思想もあつたと推察されるということです。

ボランティア参加の

皆さんに感謝と期待

夏の黒田家墓所清掃

昨年の夏の墓所清掃は八月二日(日)に行われました。

清掃参加者は藤香会関係者六七名のほか四名のボランティア参加者を合わせ八一名でした。

実は、ボランティアを募っての清掃作業は今回が四回目でしたが、はじめはいろいろの期待と不安がありました。

市民の皆さんに周知ができるだろうか。何人の参加があるだろうか。参加者は気持ちよく作業をしてくださるだろうか。一回で懲りずにまた来てくださるか。なかでも事故とケガは、保険はかけているものの最も心配なことでした。ところが、案ずるより産むが易しでした。

参加者数は決して飛躍的な伸びではありませんが、漸増しておりパワー溢れる若い方姿も見られ頼もしいかぎりです。

代当主の黒田長高様から、ごあいさつがありました。その中で長高様は、藤香会はじめ多くの福岡市民によって、長年にわたり歴代福岡藩主の祭祀が、このように厳粛に執り行われてきていることや、また最近、黒田家墓所の清掃が多くなるようになったことに対する感謝のことは述べられました。

そのあと参詣者は、本堂から前々日草刈りが終わったばかりの墓所に移動し、墓前勤行に参加しました。



◆◆ ボランティアの参加者と会員での夏の黒田家墓所清掃 ◆◆

二〇〇九年 秋の史跡めぐり

福岡藩ゆかりの史跡を訪ねるバスツアーは、十月二十四日(土)、澄みわたった秋天のもと糸島地区と福岡市早良区をめぐる。

学習と懇親をかねたツアーでの訪問地は、朝九時、集合場所の天神から二見ヶ浦―桜井神社―芥屋の大門公園―伊都国歴史博物館―伊都采彩と廻り、最後は紅葉八幡宮となりました。なかでも、桜井神社と紅葉八幡宮は黒田家とゆかりの深い、元県社の社格のある神社ですが、私たち一行三名はこの二つの神社で、(藤香会正式参拝)をして、御祓いを受けました。

参拝のあと、それぞれの宮司さんからお宮の歴史や黒田家との関係などの説明を聞きまし



◆◆二見ヶ浦にて◆◆

まず、志摩町杉本にある「桜井神社」の祭神は、与止妃大明神・島岡大明神・八所産土大神の三神で、その中の島岡大明神は黒田藩第二代藩主・忠之公の神霊といふことです。忠之公は生前、与止妃大明神を殊の外崇敬され、当神社には社殿をはじめ数々の寄進をされています。

また、早良区高取にある「紅葉八幡宮」は、元は早良郡橋本村(現西区)にありました。ところが第三代藩主・光之公は、橋本で数奇な生を享けられて紅葉八幡宮を有難い自分の氏神として篤く敬われていたため、寛文六年神領一〇〇石を寄進され四周の松原をも与えて、福岡城に近い西新の地に移されました。

さらにこの神社は大正二年、電車の軌道が境内を通ることになるため、福岡の市街が一望できる現在地に遷宮されることになりました。

この桜井神社と紅葉八幡宮は毎年、藤香会の代表が参拝し御神酒奉献を欠かしません。

九一日のバスの旅は博多湾に始まり、右手に遠く女界灘を望んで糸島半島の沿岸をなでるよう走りまわりました。お楽しみのはじめは芥屋の大門のホテルでした。一行は浅酌ながらビールで顔をほころばせ、海の幸に舌つづみを打ちました。

「黒田官兵衛を大河ドラマに！」

― 姫路キャンペーン隊が来福 ―

昨年九月十六日、姫路市の観光宣伝隊が福岡市を訪れ、姫路市の観光と物産を福岡市民にアピールし、「官兵衛を主人公とするNHKの大河ドラマ放映を、福岡の皆さんといっしょに実現させよう」と呼びかけました。

官兵衛とはもちろん如水公のことで、関西では、姫路城内で生まれ、のちに福岡藩の始祖と

会員クリック⑦



藤香会理事 篠原カズエ

昨今、思い出すことなど

平成六年四月、突然主人が旅立ちまして、小さな会社でしたが、残された会社を無我夢中で経営しておりました。そんなある日、藤香会からお誘いの電話があり、喜んでお手伝いさせていただくようになりました。

昨今は、いろいろと思ひ出すこともあり、去年二月の黒田長久様ご逝去のときは、三月二日、東京青山で会葬者の一人として列席させていただきました。ありし日の長久様の面影を偲びつつ最後のお別れができな難いことでした。生前のお人柄そのままのきれいなお顔でした。

また、一昨年の八月三日には遠く姫路まで行き、如水公や長政公ゆかりの史跡をめぐり、「黒田サミット」にも参加することができました。

したが、このことは、私なりの自分史に記入させていただきました。少しお話を跳びますが、わが町福岡には歴代のお殿様が遺されたたくさん文化財があります。私が現在住んでいる中央区警固の「上人橋通り」は香正寺の日延上人に因むものです。お上人は囲碁がお上手で、二代藩主忠之公の囲碁相手でした。雨の日でもお寺から登城できるようにと架けられたのが「上人橋」だそう。この橋のすぐ近くには「林毛橋」という橋もありましたが、戦後、川が国体道路になったためどちらの橋もなくなくなってしまいました。

また香正寺の斜め向かいの長圓寺には如水公のご実弟・黒田利高様の墓碑とお位牌があるとのこと。私が嫁いできた昭和三十年ころは、まだ武家屋敷の名残があり、門や玄関の造りも昔のもので土塀があり、家も少なく静かなところでした。そのような町に住めることに感謝をしている一人ですが、この町の基礎をつくられた領主様方の墓所が千代町の崇福寺にありますので、多くの方にお訪ねいただき、お参り下さることを願っています。

なられる黒田孝高公のことを「官兵衛さん」と呼ぶことが多いそうです。

宣伝隊の一行は、石見利勝姫路市長をはじめ姫路市商工会、「播磨の黒田武士顕彰会」のメンバーでした。まず博多駅前キャンペーンガールの「姫路お城の女王」を先頭に、甲冑姿の黒田武士がパーフォーマンスを行いました。そのあと一行は福岡市役所に移動し福岡市長へ表敬訪問しました。

当日、市役所では両市長とも藤香会、黒田奨学会、福岡市民の会との、一昨年の「姫路

黒田サミット」以来の再会となりました。藤香会の中島敏行副会長からは当会の二〇〇年の歩みのことや福岡城天守閣建設運動の現状などの話がありました。

● 編集後記 ●

藤香会創設二〇〇年。任意の会で、これほど長い歴史がある団体は珍しいのではないのでしょうか。この「たより」の編集が藤香会のあゆみの記録の一端ともなると思えばうれしきかぎりです。(平田)